能登支援に出かけてます

先月（R７・５月）までで、都合８回能登に出かけてきました。現地の様相はそのつど変化してきていますが、多くの方が指摘しているように、復興のスピードが大変に遅いように思えます。８回の経過は以下のとおりです。

１回目：令和６年１月31日～２月４日
　穴水町、珠洲市、輪島市等で避難所炊き出し
２回目：令和６年３月８日～11日
　珠洲市飯塚・小泊等で住宅被害ヒアリング・訪問
３回目：令和６年５月11日～14日
　同市平床・飯塚・寺家でお茶オデンカフェ＋住宅訪問・相談を実施
４回目：令和６年７月１日～４日
　同市平床集会所の構造補強工事＋住宅相談
５回目：令和６年10月29日～31日
　同市　同上＋同上
６回目：令和６年12月21日～22日
　同市、解体に伴う再利用相談、現地確認
７回目：令和７年３月１日～４日
　同市、同上、建具ひきとり
８回目：令和７年５月16日～18日
　同市若山町・日置（ひき）で仮設住宅団地集会所でオデンお茶カフェ＋住宅相談実施

もちろん以上の活動の前後や合間に、地域の様子をあちこちで確認してきました。

避難所で炊き出し（20240201、穴水町旧甲小学校）

能登半島地震の被害の概要

今回の令和７年元旦の能登半島地震の被害の特長は、以下の３点と思います。

・甚大な建物被害

まず第一は、なんといっても甚大な建物被害が発生していることです。能登半島に限らず石川県・富山県は規模の大きな住宅が多く、耐震化率も低い状況もあり、特に私が何回も訪れている珠洲市では壊滅的被害が生じているといっても過言ではありません。ちなみに今回の地震による建物被害は約11万棟、うち石川県内は約7.4万棟、珠洲市は約5300棟です。珠洲市の世帯数は約5800なのでほぼ同数です。そして能登半島では近年比較的大きな地震が相次いでいます。過去の地震で大きかったのが2007年M6.9最大震度６強、2022年にもM5.0最大震度5強の地震が発生しています。2007年の地震では、輪島市の總持寺祖院や門前町重伝建地区も大きな被害を受け、ほんの数年前にようやく復興が完成したところでした。

・多様な災害の発生

第二は、多様な災害の発生です。震源範囲が半島北部に係っており、幅30KM×長さ約120KMと広くその影響で半島のそれぞれの場所の立地・地形・地質等に応じ、震動による建物被害・大震火災・津波・海岸隆起・液状化・がけ崩れ等。またそれらの結果として起きたインフラ被害、集落の孤立化、また昨年9月の豪雨災害も追い打ちをかけるなど、広範囲にわたり様々な様相を呈しています。

建物被害の例（20240310、輪島朝市地区）

・半島災害

そして第三は半島災害です。復興の遅れの大きな原因となっています。ご承知のことと思いますが、能登半島は、金沢市など半島の付け根から先端まで約150KMあり伊豆半島の約倍弱の距離があります。半島の背骨として能越自動車道・のと里山海道の高速・高規格道路ができていましたが、これらが寸断された結果、一次は半島北部全体が孤立化したといってもよろしいかと思います。これは、復興のスピードの大きな制約条件になってます。未だにですが、半島先端部には、ボランティア等の滞在拠点が非常に少なくて、公式ボランティは、石川県が受け付け、金沢市に滞在し、そこから現地に専用のボランティアバスで向かうということになっています。

そうすると特に珠洲市等の半島先端部まで、道路もズタズタ、支援車両による渋滞などで、現場に到着するまでに４時間くらいかかるという状況となっていました。すると現地での活動時間は２時間くらいとなっ